

平成30年度地域リハビリテーション拠点事業

平成31年1月15日現在

研修・講演会

大項目 小項目	予定	参加実績	実施日	開催場所
<b>リハビリ関係者向け講演会</b>				
第18回研究大会 演題 ICFを活用したリハビリテーション医療 講師 上田 敏 氏	全1回	270名	9月20日	船橋市中央公民館
第19回研究大会 一般演題発表 特別講演	全1回		2月9日	きららホール
小 計	全2回	全1回 270名		
<b>リハビリ関係者向け研修会</b>				
準備委員経験者向け勉強会 テーマ「KJ法への第一歩～ラベルの書き方、貼り方～」 株式会社 エバーフィールド 永野 篤 氏		35名	4月20日	船橋市リハビリセンター
第25回地区勉強会(北部) 事例検討会 「問題が増えてきたパーキンソン病の方の意思決定支援」 ミニレクチャー「意思決定支援について」船橋二和病院 佐々木ゆかり氏	全4回	142名	5月29日	船橋市二和公民館
第26回地区勉強会(中東部) 事例検討会 「がん患者の在宅支援方法を本人の意思決定の支援も含めて考える」 ミニレクチャー 「がん患者における多職種連携～がん終末期の在宅緩和ケアへの調整のポイント」 千葉徳洲会病院 伊東理砂氏		116名	7月23日	船橋市立 リハビリテーション病院
第27回地区勉強会(南西部) 事例検討会 「繰り返す「肩打」を助さずから本人の望む生活を表現するために多職種で考える」 ミニレクチャー 「意外と知らない骨粗鬆症のホントのこと」 船橋中央病院 山下正臣氏		90名	11月19日	船橋市中央公民館
介護職員向け勉強会 内容 移乗(基本)、移動(基本)、指導者向け、起居・体位変換、摂食嚥下、フットケア、高次脳機能障害		計8回 308名	5月31日、6月29日、7月25日、8月29日、9月28日、10月30日、11月29日、12月17日、1月28日、2月27日	船橋市立 リハビリテーション病院、 船橋市リハビリセンター、 さわやか苑
第12回摂食栄養サポート勉強会	全2回	65名	9月27日	船橋市立 リハビリテーション病院
第13回摂食栄養サポート勉強会			2月14日	船橋市立 リハビリテーション病院
小 計	全16回	計13回 756名		
<b>市民向け講演会</b>				
第7回市民公開講座 演題 「地域包括ケア時代のリハビリテーション その人らしくらすことを支える」 講師 医療法人共和会 小倉リハビリテーション病院名誉院長 浜村明德 氏	全1回	80名	6月23日	きららホール
リハビリセンター講演会	全1回	33名	9月27日	船橋市リハビリセンター
小 計	全2回	計2回 113名		
<b>市民向け研修会</b>				
ふなばし福祉フェスティバル	全1回	115名	10月20日	vivit 南船橋
ヘルシーふなばしフェアにおけるリハビリ機器を用いた体験	全1回	55名	1月12日	東武百貨店 船橋店
小 計	全2回	計2回 170名		
<b>総 計</b>				
	全22回	計18回 1309名		

普及・啓発等

大項目 小項目	予定	実績
<b>パンフレット作成・配布</b>		
船橋市リハビリセンターに関するパンフレット	年1回	毎年更新 市民及び専門職を対象にセンター内に配置するとともに、センター見学者や市民向け研修会にて配布 作成部数:1000部
<b>地域リハ推進用リーフレット作成</b>	年2回	8月、2月に作成
<b>リハビリセンター刊行物</b>		
内 容 ・4月vol.18,7月vol.19,10月vol.20、1月vol.21	年4回	作成月:4月・7月・10月・1月 二宮・飯山満地区町会に回覧。医師会員あてに配布。関係のある居宅介護支援事業所に送付。市民及び専門職等を対象にセンター内に配置するとともに、見学者等に配布、拠点事業ホームページに掲載 作成部数:各4000部
<b>リハビリ総合相談の周知ちらし作成・配布</b>		
リハビリに関する総合相談窓口のPRを目的とした周知ちらし	年1回	作成月:7月 市民向けに周知
<b>ホームページに最新情報掲載</b>	年2回	勉強会等の案内等を随時掲載
<b>生活期リハに関する調査研究</b>	年3回	サービス担当者会議実態調査 通所リハビリテーション実態調査 回復期リハ病棟実態調査

## 第 18 回船橋市地域リハビリテーション研究大会

1. 日 時 平成 30 年 9 月 20 日 (木)  
19 時 00 分～20 時 30 分 (18 時 30 分受付開始)
2. 会 場 船橋市リハビリセンター
3. 内 容
  - ・講演 講師 公益財団法人 日本障害者リハビリテーション協会顧問、  
日本福祉大学客員教授、小金井高次脳機能障害者友の会 (いちごえ会) 顧問、  
元東京大学医学部教授

上田 敏氏

日本のリハビリテーション医学の第一人者であり、『目でみるリハビリテーション医学』や『ICF の理解と活用』などの著書も有名な上田敏氏を招いての講演会を行なった。上田先生からは、ICF の基本的考え方から活用方法、リハビリテーションの本来の意味、わが国におけるリハビリテーションの歴史、用語の整理など多岐に渡りお話しいただいた。

# 第18回船橋市地域リハビリテーション研究大会 アンケート集計結果

【開催日】平成30年9月20日（木）

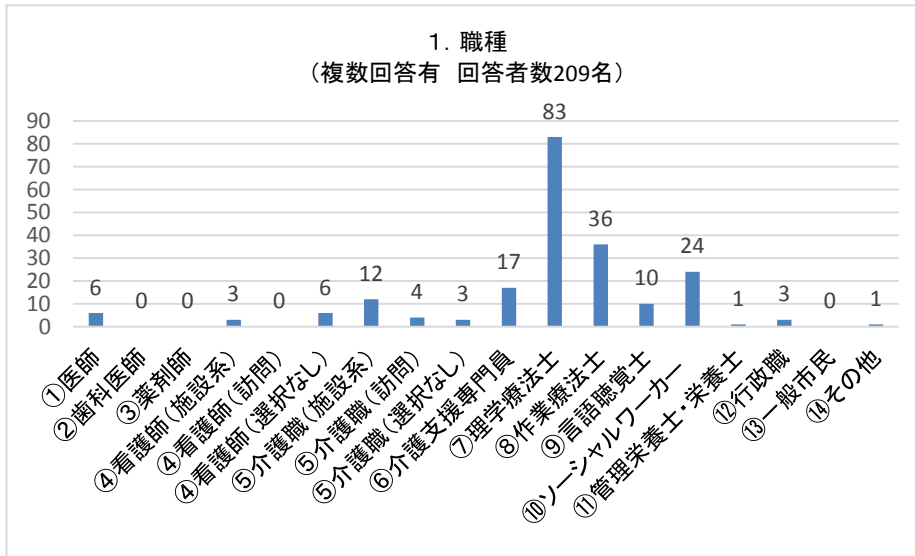
【会場】船橋市中央公民館

【参加施設数】73施設

【参加者数】284名 アンケート回答者209名（回収率73.6%）

## 1. あなたの職種等を教えてください。

- ①医師 ②歯科医師 ③薬剤師 ④看護師（施設系・訪問）※どちらかに○をお付けください  
 ⑤介護職（施設系・訪問）※どちらかに○をお付けください ⑥介護支援専門員  
 ⑦理学療法士 ⑧作業療法士 ⑨言語聴覚士 ⑩ソーシャルワーカー  
 ⑪管理栄養士・栄養士 ⑫行政職 ⑬一般市民 ⑭その他（ ）

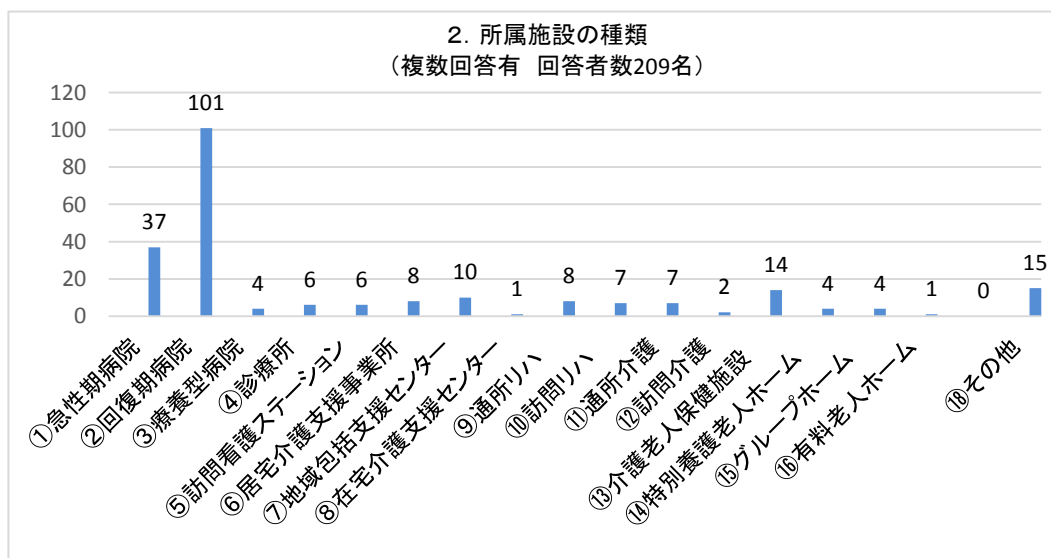


<その他>

介護相談員

## 2. あなたの所属する施設種類について教えてください。

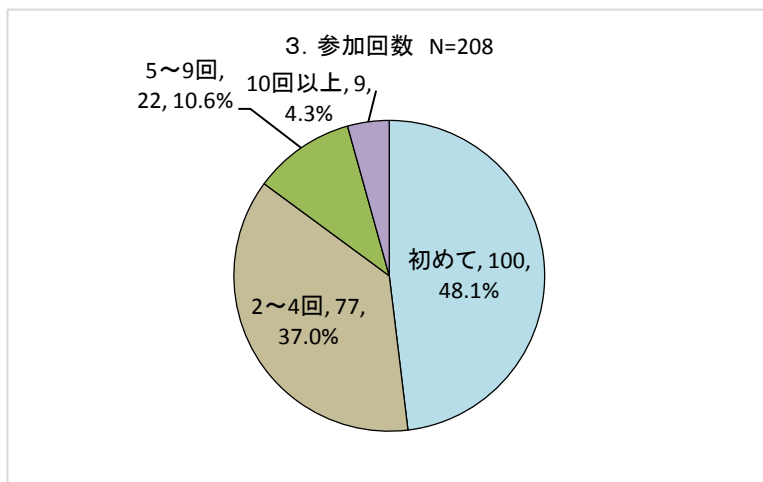
- ①急性期病院 ②回復期病院 ③療養型病院 ④診療所 ⑤訪問看護ステーション  
 ⑥居宅介護支援事業所 ⑦地域包括支援センター ⑧在宅介護支援センター  
 ⑨通所リハ ⑩訪問リハ ⑪通所介護 ⑫訪問介護 ⑬介護老人保健施設  
 ⑭特別養護老人ホーム ⑮グループホーム ⑯有料老人ホーム  
 ⑰小規模多機能型居宅介護 ⑱その他（ ）



<その他>

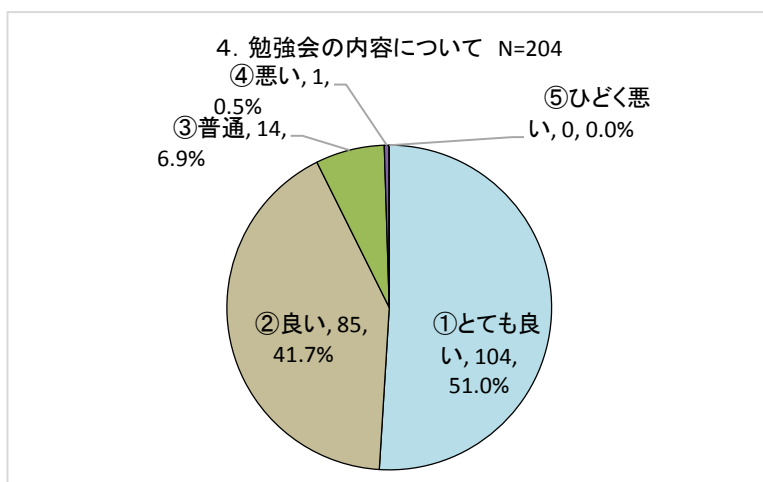
行政、 保健所、 サービス付き高齢者向け住宅、 知的障害者施設、 通所デイ、 職能団体、 障害者施設

3. 船橋市地域リハビリテーション活動（研究大会・勉強会等）に参加されるのは何回目ですか。



4. 今回の勉強会の内容について

- ①とても良い ②良い ③普通 ④悪い ⑤ひどく悪い



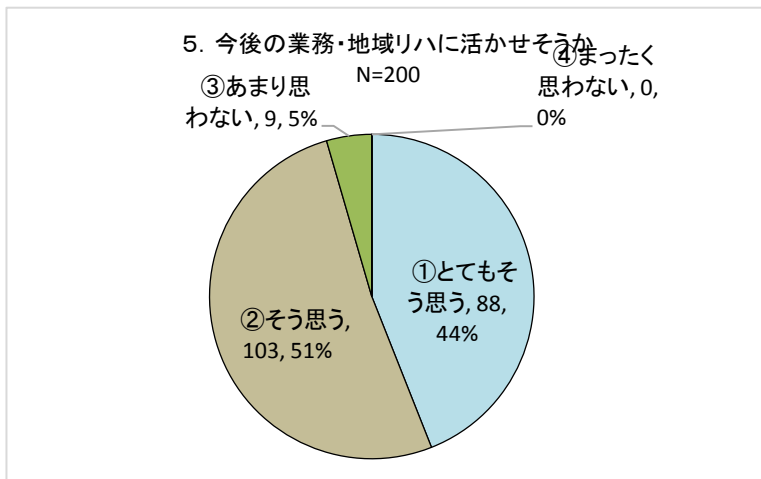
1	高齢者リハに関わる中で、最後の「参加するような事をつくる」というのが印象に残り、そのように行っていきたいと思いました。
1	参加が「目的」であるということを改めて理解できた。
1	ICFを用いた評価において、上手く活用できておらず、苦手意識がありました。改めてICFについて説明を受けることができてとても良かったです。
1	リハビリテーションという言葉の誤解がまだまだ世の中にはあると思った。リハビリ=運動となっているが、参加、人生を目標にした支援がチームで求められていると改めて感じました。
1	ICFについて、具体的な事例での説明があり、わかりやすく理解できました。質問にもありましたが、高齢者の参加をどのようにしたら良いのかについては、「することをつくる」という言葉が印象的でした。
1	CMの業務でもICFの視点が必要とされていますが、いまひとつイメージしづらいところがあります。具体的な取り組み例を教えていただきわかりやすかったです。
1	ICFについてよく分かった（内容・考え方）
1	非常に分かりやすく勉強になりました。
1	ICFが益々よくわかってきました。介護の現場で考えている事のいくつかと結びつきました。
1	事例紹介があり、ICFのイメージが少し膨らみました。
1	ソーシャルワーカーの役割とリハの関係を改めて考えることができた。
1	ICFを使うことが多くなってきて、実際ICFがまだ理解できていなかった為、今回参加できて良かったと思っています。
1	ICFに対する印象がかなり変わり、大変勉強になりました。
1	ICFの視点を改めて考える事が出来ました。また、リハビリの歴史も興味深かったです。（他2名）
1	改めてICFの内容を確認させていただき、誤った認識となっていたことも多く、再確認することができました。（他1名）
1	リハビリテーションの概念を知ることができた。

1	実際にどのようにリハビリを進めたかを知ることができ、わかりやすかった。
1	ICFの成り立ちや内容について学習することができました。（他2名）
1	MSWとしてリハビリの歴史等、詳しく知れてよかった。
1	今この話を聞くことは、これからのリハビリを考える上で意義がある。
1	[できる]と[している]の差を埋めるのは難しいと感じていたところ、良いお話を聞いて良かったです。
1	教科書だけでは学べないことを学びました。
1	高齢者の参加について分かりやすかった。
1	リハビリ職と介護職など他の職種との連携で、生活の向上ができると思えた。リハビリ室でできたことと生活の場でできることを分けて考えることが大切だと数値で説明いただき、とてもわかりやすかった。
1	とてもわかりやすいお話でした。もっとゆっくり色々聞けるとなおよかったです。
1	ICFの視点がよくわかりました。
1	時間が足りず最後の章が聞けず、とても残念でした。著書拝読致します。
1	ICFの医学的モデルがとても詳しく理解できました。障害者も人間らしく生活できる場所は、とても勉強になりました。
1	上田先生の貴重な講演が聞けたことは、とても素晴らしい機会であったと思う。（他9名）
1	業務を行なっていく中で、ICFをしっかり考えることがなかなかなかったので良い機会だった。（他1名）
1	資料に図がある事でICFの相互作用モデル等がわかりやすく、講演内容と実体験を合せながら考えることができた。機能だけでなく、参加、活動も評価が必要であると気づきました。
1	ICFの解説がわかりやすかった。
1	素晴らしい！感動しました！「共同決定」今の自己決定支援に通ずるものですね。
1	歴史を踏まえてリハビリテーションについて深く学びました。先生の本を読んでいた為、分かりやすかった。
1	時間がなくて聞けなかった最後の部分も聞きたかったです。
1	プラスの生活機能の重視。目標指向的活動の概念、参加の目標。
1	今後患者様の統合と解釈を実施する上で参考になります。
2	ICFについての理解と総合リハに対する意識の向上につながった。
2	上田先生のお話を直接聞いた。ICFの考えをマネジメント（ケアプラン）・リハビリに活かしながら行っている。特に生活機能と障害の「階層構造」はレベルであり、縦の構造だとわかり、図の概念が納得出来た。
2	最後の基本概念を若いPT・OTに再度認識して欲しいと思うのです。生活人生（life）を自らが学ぶようになって欲しいので、「リハビリの先生」と言うのをやめてほしい。
2	とても良かったが、もう少し後半からの話を聞きたかった。高齢者に対してリハビリについて聞きたかった。
2	もう少し長い時間（30分くらい）はお話を聞きたかった。
2	ICFについて改めて振り返り、より知識を高められた。（他7名）
2	現在の教育も素晴らしいが、昔（30年位前）のリハ教育は素晴らしかったと思いました。
2	ICFについて理解できた。ポジティブな分類というのが心に残りました。
2	治すリハ中心より参加するリハを考えさせられました。
2	時間内に全て聞けず、先生のお考えを聞きたかったです。
2	上田先生のお話を直接伺える貴重な機会でした。（他3名）
2	リハビリテーションの歴史からICFの考え方がわかり知識が深まった。（他4名）
2	リハビリの基本的な理念を再確認することができた。（他1名）
2	ICFをよく理解していないスタッフが多く、とても参考になった。
2	リハビリテーションの中でICFを使うというイメージが、中々湧かなかった為、今回の内容がとても参考になりました。
2	ほぼ知らない分野でしたが、資料、スライド、先生の語りがとても良くわかりやすかったから。
2	今回学んだ視点で見られるようにしていきたい。
2	参加についての重要性を学ぶことができました。機能面についてとらわれやすかった為、考え方を見直していきたいです。
2	知性に触れる事ができた事は、非常に貴重と思います。参考になりました。
2	資料もあり、わかりやすい講演であった。（他1名）
2	ICFについては以前から学んでいたが、上田先生の講義をお聞きする機会がなかったので大変貴重だった。
2	ICFの考え方の理解が深まった。障害があると非常に注視するように思っていたが、人が生きるというプラスの面を考えていこうと思う。
2	リハビリテーションの基本的な考えを学ぶ事ができた為。
2	ICFについてよく考えること（使うこと）があり、臨床で役立てそうであったため。

2	目標指向的活動向上プログラムは、とても勉強になった。
2	実践において活用が難しいが、知識として勉強になりました。
2	難しい用語が多く、理解しがたい。(他1名)
3	概念的な部分が多く、実例として提示された内容が短かった。むしろ歴史的な部分はもっと短くて良いように思われた。
3	ICFの考え方は今まで聞いたが、改めて活用しようと思ったため。歴史は知らなかった。
3	日本のリハビリテーションの歴史など、自分の職業はどういった歴史をたどっているのか、あまり理解せずに働いていたので、貴重なお話を聞けて良かったです。
3	時間が短いので話を全て詰め込むのはなかなか大変な気がした。
3	ICFが分かりにくかった。歴史は面白かった。
4	歴史の所を並べるのではなく、活動・参加などICFから参加活動について話をもっとして頂きたかったです。
	ICIDH時代の知識がなく(教育を受けておらず)、上田先生の詳しい講演を聞くことができた。

5. 今回の勉強会の内容は、今後の業務に活かせそうですか。

- ①とてもそう思う ②そう思う ③あまり思わない ④まったく思わない



1	ICFの理解から病院での連携の視点から地域貢献に繋がるかと思えます。
1	ICFの見直し(参加項目を重視して)、チームリハとして他職種の協力を得る。
1	クライアントの支援をしていく時に参加ということをしかりとCI、Faとスタッフ(支援者)が共業して支援していくようにマネジメントしていきたい。
1	退院に向けた目標設定をする上で、考え方の指標になりました。
1	回復期で働き、ウィークポイントに多く注目してしまうこともあり、ICFを元に良い点と生活を意識して、取り組みたいと思いました。
1	OTとしてのアセスメントのプロセスと非常に似ている部分があるように感じた。プロセスを立てていく上で、頭の整理をすることができた。
1	リハビリテーションの要素を通所介護にも取り入れたいと思いました。
1	参加について今後も重要視して考えていきたいと思えます。
1	患者様への関わりについて、自分自身を見直そうと感じた。
1	複数の選択肢をPt、Faに提示できるよう、リハビリの内容や実生活でどのように活かすのか、考え方を学ぶことができた。
1	今日知った内容を活かしていきたいと思う。
1	基本的とも言える考え方をあえて言葉(言語化)で聞けたので、今後後輩に伝えたい。
1	参加と生活目標を意識する点。
1	ケースの支援方策の検討。
1	ご利用者へ提案できる。デイに来ることだけでは寂しいと思う。
1	介護福祉士の資格にとても勉強になりました。参加をつくる事が生きる事に繋がるのだと感じました。
1	ICFの活用。
1	退院後、訪問を始めようと活動開始し始めたところなので活かせると思った。
1	病棟看護を行う中で、ICFの考え方を取り入れた看護を行う“参加”に目を向けたプラン(活動)を考えていく。
1	自己決定支援でもう少し選択肢を提示する等、工夫したい。

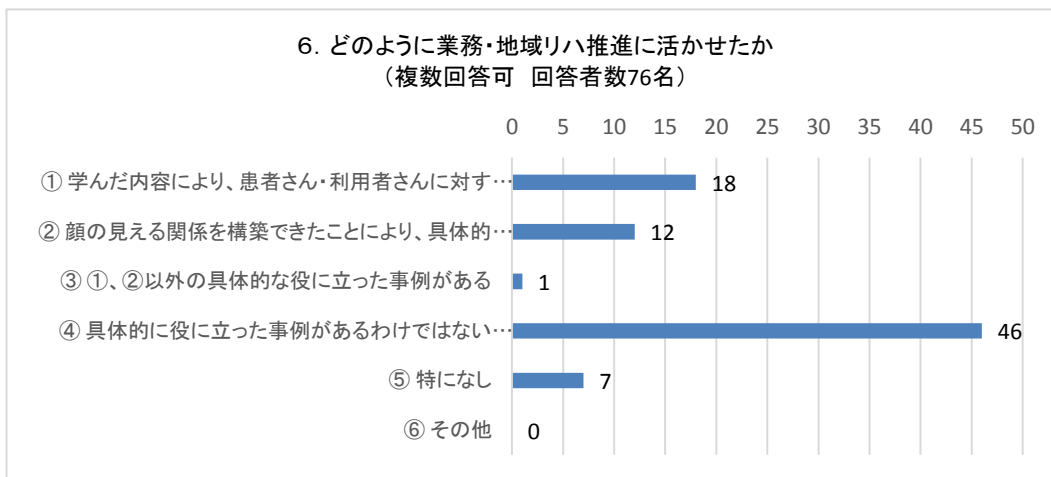
1	していること、できることについて、実生活の中で注意して支援していこうと思いました。
1	総合リハビリテーションの大切さ、その中で自身の職種（CM）が特にすべきことを考える機会になりました。
1	リハの目標設定。
1	特に最後・質問された方と同じ悩みがありましたので…。
1	組織作りへの参加意識の向上。
1	理解はしているが、実行できていない部分について活かしていきたい（参加の重要性）。
1	問題点の整理、ゴール設定に活かしていきたいです。
1	患者様にとってより良い治療・考え方が出来るようになりたいです。
1	利用者さんに対し、漠然と悩んでしまうこともあるので、整理して考えることができると思いました。
1	自宅退院に向けた物的環境、人的環境を考えていく点で。
1	科内教育に活かしていきたいと思います。
1	日々の治療業務。学生指導。
2	高齢者関係の施設で、このような内容の勉強会を広めてほしいです。
2	患者さんへサービスを提供する際、本日聞いたことを念頭に行っていきたいと思います。
2	目標が大切と気付きました。
2	患者中心に目標設定を促す。
2	活動を向上させるだけでなく、いかに「参加」を考えながら、臨床できるか考えていこうと思います。
2	回復期に入院する患者の参加を考えていく。
2	思考の共有、共通の考えをもつての介入、ケア、自立支援。
2	リハ転院の支援の際に、考えていきたいと思いました。
2	セラピストと患者様の共同した目標を立てる点。
2	包括ケア病棟に従事しています。Nrsとの連携、日常での動作訓練が必要と思いました。
2	リハビリが「生活の中でしている活動について」目を向けることができそうと感じたので、その人の生活の場で活用していこうと思う。
2	アセスメント、プランを作る時、もっとICFを意識します。
2	より多くの他職種と連携し、目的・目標につながるリハビリができるよう、コミュニケーションをとっていききたいと思いました。
2	クライアントの今後の目標をみずえる上でICFを活用していきたいと考えた為。
2	できる活動向上とともに、していることの確認もしていきたいです。
2	ICFを活かした患者様への退院支援に活かせると思います。
2	活動・参加に関して。
2	患者さんと触れあう際に、良い面に目を向けようと思う。
2	チームの在り方、目標設定に活かしていきたいです。
2	訓練室だけのものではなく、日常にこそリハビリがある事を発見できそうです。
2	リハビリをするにあたり、必要な情報が増えた。
2	後進育成をする上で、初心に戻れた。
2	ICFの考え方、共同決定について。
2	患者様の評価をするにあたり、ICFを使って考え、活動・参加へつなげていきたい。
2	事例検討の際に参考にさせていただきます。
2	ICFについてスタッフへ指導する際に。
2	プライマリー業務等、実際のケアで退院後の生活を見据えたケアが提供できそう。
2	日々の機能訓練と共通内容だと思いますので、改めて見直して参りたいと思いました。
2	退院支援について活かそうと思います。しているADLを増やしていきたいです。
2	PT/OTの指導に。リハの視点に。
2	患者様のアセスメント、目標設定の際に、目標指向的活動向上プログラムのプロセスを活用していく。
2	視点、気付きの考え方として役立てる事ができる。
2	もう1度復習し、少しでも業務で活かしたいと思います。
2	リハビリについての考え方、プラスの視点。参加の意味、目的としての参加の視点でプランの役割が見えた。
2	施設では身体機能の維持という言葉えおよく使うが、できる活動／している活動を考え、実用的なリハビリを各職種で検討していこうと思う。
2	本人にとっての参加。本人や家族、本人の人生における他者の目標共有は難しい課題だが、考えていくことは意義があると感じた。
2	“障害はごく一部で残りはプラスの要素（生活機能）である。”という事を考えながら、介入する事で退院後の生活につながる、リハビリを実施できると考えます。



2	最後の方で話されていた参加について「する事をつくる」という目的を患者様と考えられればと思いました。
2	目標の共同決定を行っているが、今回の講義を聞いたことで、今後の臨床における患者様との目標の共同決定の室を高めることができそう。
2	日常の業務の中で、利用者様の活動と参加に視点を向けていきたいと思います。上田先生の貴重なお話を直接伺うことが出来たので、職場でもリハビリの内容について、再度検討を重ねてみたいと思います。
2	在宅で生活されている方に対して、本当に必要な訓練を選択するために今回の内容を活かせると思います。
2	急性期の段階から、より意識的にICFを使用していけると良いと思う。
2	できるADLとしているADLについて、深く関われると思います。
2	参加を目標に多職種との関わりを増やすこと。
2	目的指向型プログラムの実践について、勉強を進め活用していく事ができると、もっと患者様のQOL向上につながると思われる。又、そうした実例の交換会のような機会があれば、興味深いと思われる。
2	ICFでアセスメントしようと思った。
2	訓練場面のできるADLだけでなく、しているADLにもっと目を向けるべきであり、そのためにより他職種との連携をはかろうと思いました。
2	プラスの考えという点が印象に残っています。
3	介護現場にはあまりICFの概念が浸透していないように思える。PT、OT、STと介護、看護の連携が上手くいっていない施設が多いこと、介護職の質の低さ（介護福祉士、ヘルパー、無資格者の混在）も影響しているから。
3	なかなか難しいと思う。

6. 複数回参加されている方にお尋ねします。これまで参加された研究大会・勉強会等の内容は、どのように業務・地域リハ推進に活かせましたか。該当するものに○をつけ、具体例があれば記載してください。（複数回答可）

- ① 学んだ内容により、患者さん・利用者さんに対するサービス向上につながった事例がある  
具体例（ ）
- ② 顔の見える関係を構築できたことにより、具体的な連携をとることができた事例がある  
具体例（ ）
- ③ ①、②以外の具体的な役に立った事例がある  
具体例（ ）
- ④ 具体的に役に立った事例があるわけではないが、日々の業務においてリハビリテーションへの理解が深まっているのを実感している
- ⑤ 特になし
- ⑥ その他（ ）



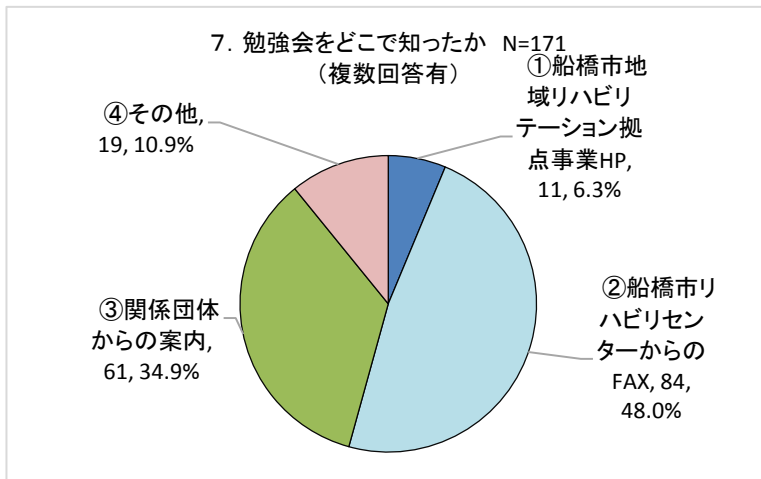
【具体例】

1	摂食障害を抱えた事例について。
1	週一のリハビリをしている事で、歩行訓練で状態を維持でき、四点杖でトイレに行かれる。
1	社会参加のきっかけを作ることができた。
1	寝たきりの入居者さんに対しての2人体制の移乗は実践できて良かった。
2	他施設の方と顔の見える関係になったことで、患者のENT先である場合相談できる。
2	専門職に相談したい事を、以前より気軽に相談できるようになった。
2	会議の呼びかけに対応して頂ける事が多くなった。
3	心不全の手帳の紹介(医療センター)。



7. 今回の勉強会をどこで知りましたか。

- ①船橋市地域リハビリテーション拠点事業ホームページ
- ②船橋市リハビリセンターからのFAX      ③関係団体からの案内
- ④その他 ( )



<その他>

- 広報ふなばし。
- 職場（院内、部門）の研修案内。
- 知人、他のスタッフより。
- 上田先生からのご招待で。
- ひまわりより。

8. 地域リハビリテーション拠点事業に対する意見や要望、今後希望する勉強会等についてお聞かせください。

リハビリとケアが大事だと感じました。
勉強会の機会を活用したいと思います。
定期的な勉強会を開催して下さる事は、実践に役立てる事が多く、有り難く思います。
上田先生のお話をもっと拝聴したいので、もう1度講師としてお招きいただけたらと思います。
みんなで勉強する事は、一体感があり好きです。
今後もこういった機会を通して横のつながりを大切にできたらと思います。ありがとうございました。
本日もご準備ありがとうございました。また是非参加させて下さい。
健常者への介護予防について学びたいです。
事前に資料を拝見できましたら、予習ができ、より良い学習ができたと思いました。
貴重なお話が聞けて、大変勉強になりました。ありがとうございました。
どのようにリハビリスタッフ、看護師、医療ソーシャルワーカーが連携し、支援を進めていったのか学びたい。
今後も参加したいと考えている。宜しく願い致します。（他2名）
貴重な話を聞かせていただき、ありがとうございました。（他1名）
鈴木先生のレクチャーにも期待します。
施設（介護）職員が行なう事によるリハビリの重要性。介護職員に必要なリハビリに対する専門知識（リハ職員と共同するため）。
時間内に収めてほしかったです。

## 第5回船橋市リハビリセンター講演会

1. 日 時 平成30年9月27日(木)  
13時30分～15時00分

2. 会 場 船橋市リハビリセンター

3. テーマ 「転倒予防」

4. 参加者 33名

5. 内 容

・講演と実技 講師 船橋市リハビリセンター 健康運動指導士 江頭 稔  
健康運動指導士 小林 瑞穂  
理学療法士 森本 有里

リハビリセンタースタッフが講師となり、転倒を予防するための講演と実技を行なった。講演では、介護が必要になる原因として、脳卒中や認知症等について転倒・骨折が上げられること、転倒につながる可能性のある薬と副作用について説明した。また、身体的な要因として、バランス能力の低下、視力障害、筋力低下、関節可動域の低下、認知障害があり、環境的な要因として屋内の明るさやマットのめくれ、すべりが転倒につながることを、床にあるものにつまずいたり、履物によっても転倒しやすいことなどをお話した。

その上で、転倒を予防するために、自宅で椅子に座ってできる体操を実際に参加者全員で行なった。

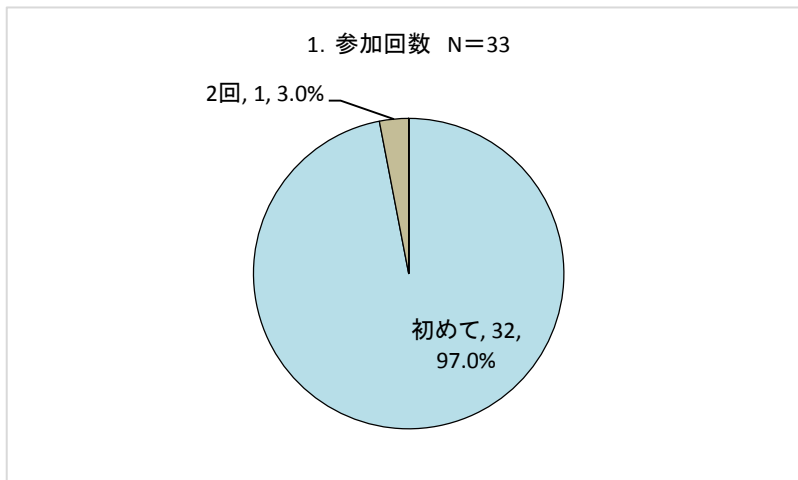
## 第5回船橋市リハビリセンター講演会 アンケート集計結果

【開催日】平成30年9月27日（木）

【会場】船橋市リハビリセンター 地下1階

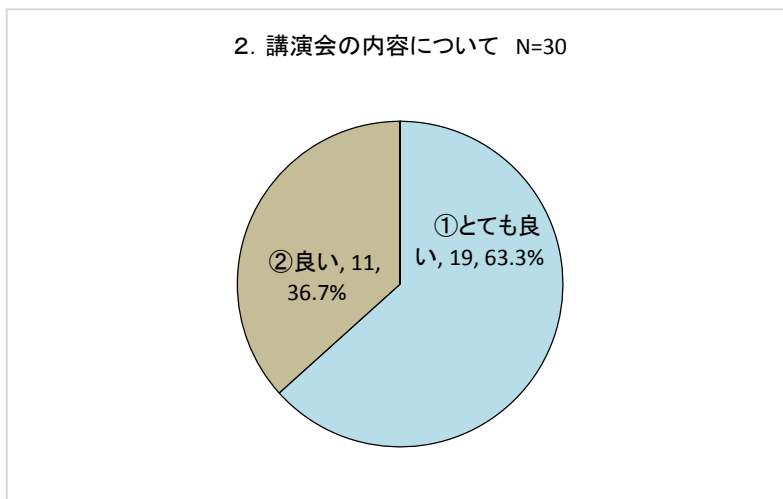
【参加者数】33名 アンケート回答者33名（回収率100%）

### 1. 船橋市地域リハビリテーション活動（研究大会・勉強会等）に参加されるのは何回目ですか。



### 2. 今回の講演会の内容について

①とても良い ②良い ③普通 ④悪い ⑤ひどく悪い

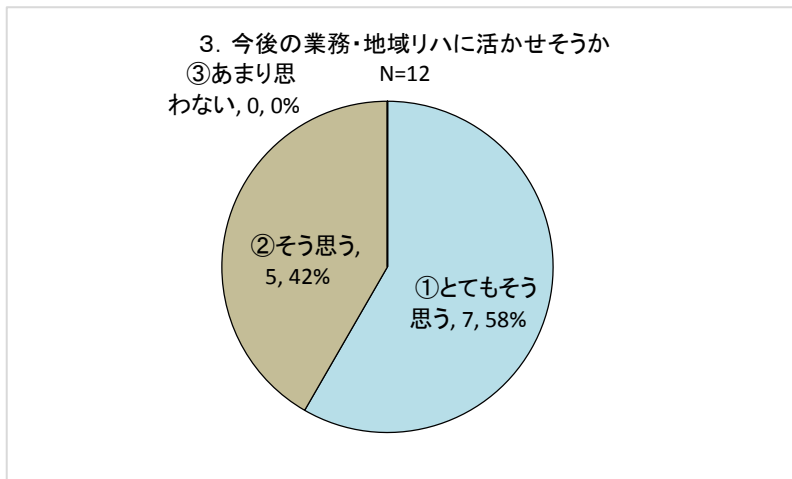


1	簡単な動きで体を動かす事がよく理解できました。
1	毎日少しずつやってみようと思った。（わかりやすく、やりやすかったから）
1	実際に講話を聞きながら運動するので、わかりやすく為になりました。ありがとうございました。
1	普段考えた事はありませんでした。ポイントが良く解りました。
1	スクワットはテレビで見てやっていたのですが、正しくやるのが大切だと思いました。
1	普段写真は見ていましたが、説明を聞きわかりました。
1	身体を動かしてやってみて良かった。どこの筋肉を使っているか意識できて、わかりやすかった。
1	今迄運動はやってこなかったので、とても為になりました。家庭で続けてみようと思っています。
1	日頃運動不足なので、こういう運動をすれば良いというのがわかりました。
1	いつも何気なくやっていた動きが、正しくないものであったので（スクワット）直せてとても良かった。毎年身体が衰えていくので、日々意識する為にとっても良いと思う。
1	テレビを見ながらでも、家で簡単にできる。ポイントがよくわかった。
1	筋肉の使い方等の説明がわかりやすいです。ストレッチをしている時の呼吸法もよく知りたいです。
1	筋力についてわかりやすかった。
2	分かり易く役に立つと思う。家で練習したいと思っています。
2	やさしい説明でした。

2	家庭で簡単にトレーニングできる。
2	日頃は漫然と行っていることを、意識して行うことの重要性の認識。
2	今迄気付かない要点がわかった。
2	分かり易かった。
2	正しいスクワットの方法を覚えた。日常のリハビリを使いたい。
2	リフレッシュできました。
2	自宅でやり易い。継続出来そう。
	普段使っていない筋肉を動かすことは良いこと。疲れる。
	転倒予防にはとても良い。毎日頑張っていきたいと思う。
	指導してくださり、大事なポイントを伝えてくれて良かった。

3. 今回の講演会の内容は、今後の業務・地域リハ推進に活かせそうですか。

①とてもそう思う ②そう思う ③あまり思わない ④まったく思わない



1	教える事は難しいが、機会があるたびに知らせる事は可能です。(仲間を増やす)
2	友人等の集いの機会にPRできそう。
2	何よりも楽しく実践できる。
2	地域のスポーツ推進委員に教え、運動会や委員の教育に活用した方が良い。時々思い出して忘れないように行くと良い。
	申し訳ありませんが、自分のことでいっばいで。自分にはとても為になりました。
	血行の改善。姿勢を良くする。互いに気付ける感性をやしなう。

## 第 12 回摂食栄養サポート勉強会

1. 日 時 平成 30 年 9 月 27 日 (木)  
18 時 30 分～20 時 30 分
2. 会 場 船橋市立リハビリテーション病院
3. テーマ 「家でできる嚥下食の工夫～コンビニ弁当が嚥下食に～」
4. 参加者 65 名
5. 内 容
  - 講義 [普通食の再調理で食べやすい形態を作る]
  - 調理デモンストレーション [コンビニ弁当を再調理]  
講師：NPO 法人 地域ケアさぼーと 小暮 美代子 氏
  - 試食・質疑応答
  - 摂食嚥下障害アセスメントシート紹介・説明

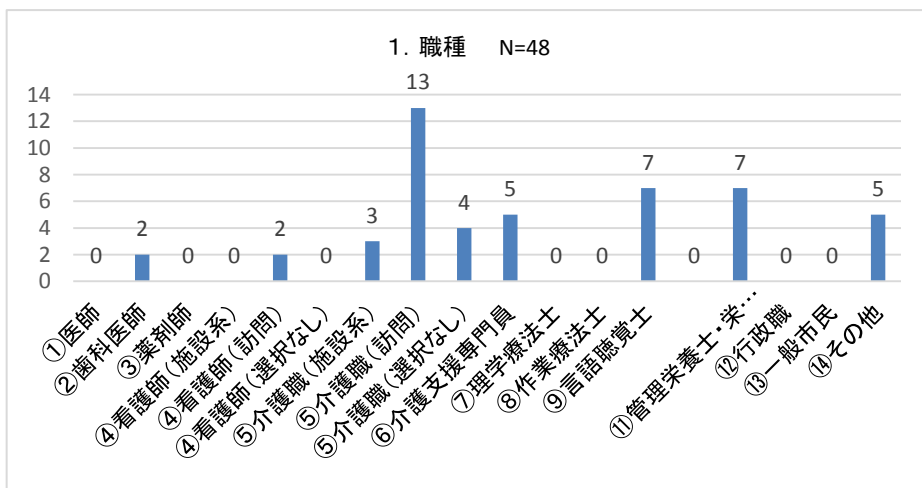
摂食栄養サポート勉強会は、船橋歯科医師会、船橋市栄養士会、船橋市立リハビリテーション病院が NPO 法人 地域ケアさぼーと 小暮 美代子氏をお招きし、一般家庭にある材料で作る嚥下食の工夫・調理方法、米粉がゆの作り方等をお話いただき、コンビニ弁当（とんかつ弁当）を嚥下食に再調理していくデモンストレーションをしていただいた。また、お菓子（じゃがりこ）にお湯を注ぎ、ポテトサラダにする方法も紹介いただいた。試食もすることができたため、参加者からは、実感することが出来たと好評だった。

第12回摂食栄養サポート勉強会 アンケート集計結果

【開催日】平成30年9月27日(木)  
 【会場】船橋市立リハビリテーション病院  
 【参加施設数】34施設  
 【参加者数】65名 アンケート回答者48名(回収率69.2%)

1. あなたの職種等を教えてください。

- ①医師 ②歯科医師 ③薬剤師 ④看護師(施設系・訪問) ※どちらかに○をお付けください  
 ⑤介護職(施設系・訪問) ※どちらかに○をお付けください ⑥介護支援専門員  
 ⑦理学療法士 ⑧作業療法士 ⑨言語聴覚士 ⑩ソーシャルワーカー  
 ⑪管理栄養士・栄養士 ⑫行政職 ⑬一般市民 ⑭その他( )

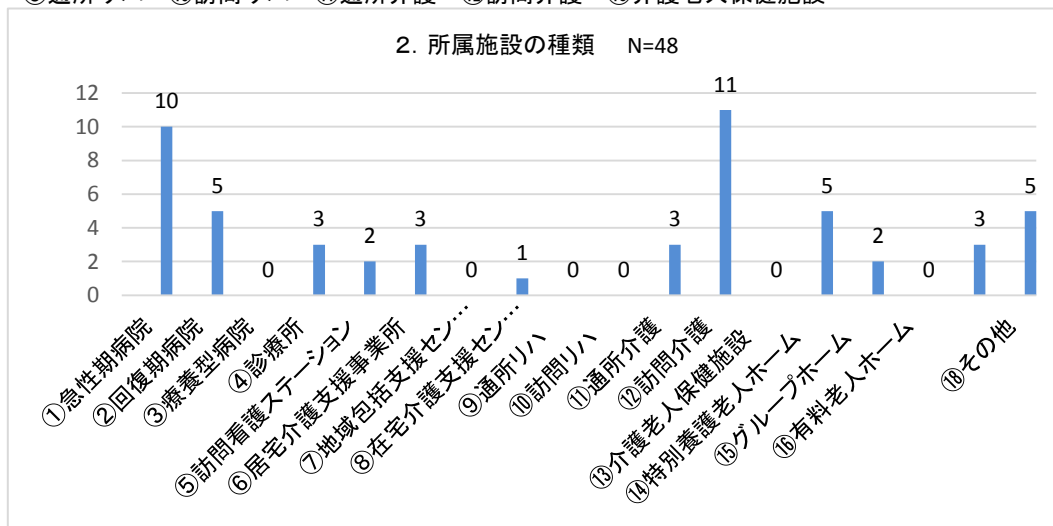


<その他>

医療事務、調理師、デイサービス管理者

2. あなたの所属する施設種類について教えてください。

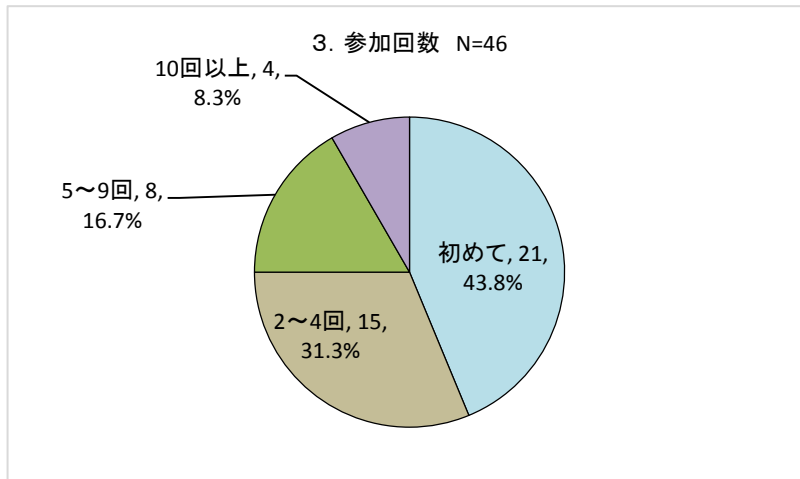
- ①急性期病院 ②回復期病院 ③療養型病院 ④診療所 ⑤訪問看護ステーション  
 ⑥居宅介護支援事業所 ⑦地域包括支援センター ⑧在宅介護支援センター  
 ⑨通所リハ ⑩訪問リハ ⑪通所介護 ⑫訪問介護 ⑬介護老人保健施設



<その他>

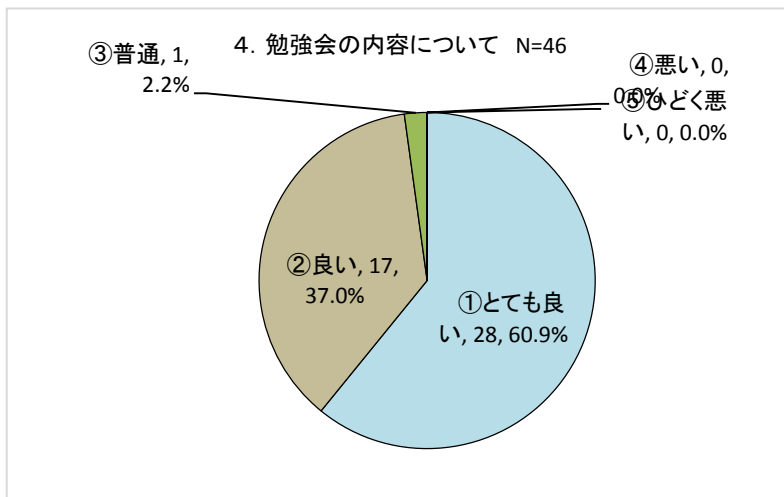
ヘルパーステーション、有償ボランティア

3. 船橋市地域リハビリテーション活動（研究大会・勉強会等）に参加されるのは何回目ですか。



4. 今回の勉強会の内容について

①とても良い ②良い ③普通 ④悪い ⑤ひどく悪い



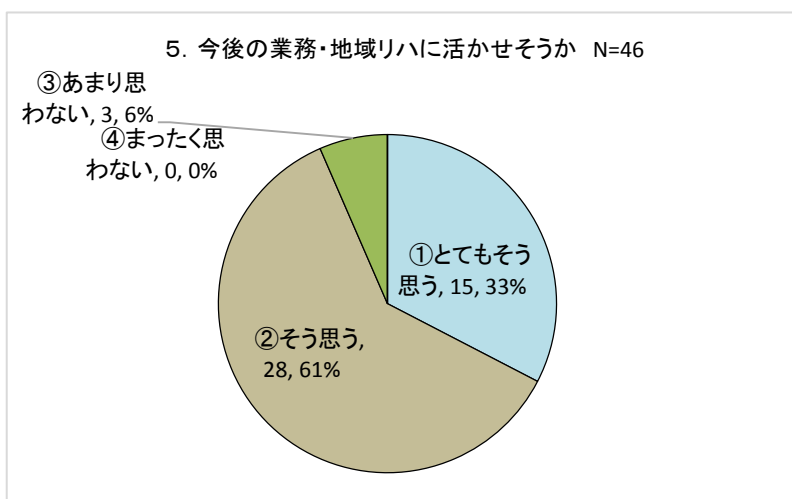
1	口腔・嚥下機能の評価、具体的な作り方、食べ比べなど総合的に学ぶことができました。手順が多い調理も多かったですが、手間をかけることで、食事の風味をなるべく残すことができると感じました。
1	8月の勉強会に参加していたので、今回の研修会が解りやすく、楽しく聞けました。
1	実践的であり、わかりやすくてよかった。（他1名）
1	じゃがりこの再調理（ポテトサラダ）、米粉の活用はすぐに使えそうでした。（他1名）
1	米粉など、美味しくトロミがつけられる方法がわかってよかった。
1	10月中旬に退院予定の方で、嚥下障害・構音障害等の後遺症で、食事にとっても気を遣っていたので、大変助かりました。
1	美味しかった。すぐに実践できるメニューや調理方法だった。
1	身近なコンビニ弁当を使って介護食を作ること、作り方がよくわかって実践できそう。
1	とても現場に合った調理の実習で勉強になりました。
1	今まで、出前（コンビニ弁当も含めて）の時は、ミキサー食の方は別メニューにしていた。コンビニ弁当から加工できるとは思わなかった。
1	ところてんの違い。米粉での作り方をみせていただきよかったです。刻みすぎても食べづらくなる。
1	ところてんの発想はなく驚いた。
1	こちらではミルミキサーを使用する頻度が高く、美味しいと感じておりましたが、それよりこしたりすったりする方が美味しいということでしたので、違いを確認してみます。
1	米粉のトロミは簡単で使いやすいと思いました。実際に食べて比較できたので、とても勉強になりました。（他1名）
1	身近な食材を使えるので、手軽に作れるため良いと思いました。



1	再調理の方法を知ることができてよかったです。普段から食べているもので、風味も損なわれず驚きました。トロミ剤の塩分量にびっくりしました。トロミ剤だけでなく他のトロミのつけ方もあるんだと知れたのが良かったです。（他1名）
1	実食によって具体的な改善点などが分かり、勉強になりました。
1	ミルサーの利用価値を理解することができた。ところてんでトロミが作れるというのには驚きました。
1	試食があり、形態の変化がわかりやすかった。
2	身近なものを工夫してできるのはいいなと思いました。
2	講義からのデモンストレーションがあり、わかりやすかった。
2	豚カツをすり鉢であてて砕いて、お湯で柔らかくしてトロミをつけるという手法は、目黒のさんまの蒸かしさんまの手法だと思いました。
2	病院内では市販のトロミ剤のみの使用なので、今回米粉や寒天が代用できると知り驚きました。コンビニ食の再調理も予想していたよりもとても美味しかったです。
2	実践的だった。
2	食べてみたいものをリクエストされた時の工夫の仕方として参考になった。
2	スナック菓子にお湯を入れただけで、美味しいポテトサラダができる方法は、これから利用するつもりです。
2	米粉とところてんでトロミを作り、調理をされていて、色々な調理に利用できると思った。
2	ミキサー粥で退院させなければいけない方に、米粉の粥はとても役に立ちました。味を損なわない調理はとても大切だと思いました。
	『食べる事が満足』の考え方は、非常に参考になった。
	実演、試食することで、自分にもできると感じた。

#### 5. 今回の勉強会の内容は、今後の業務に活かせそうですか。

①とてもそう思う ②そう思う ③あまり思わない ④まったく思わない

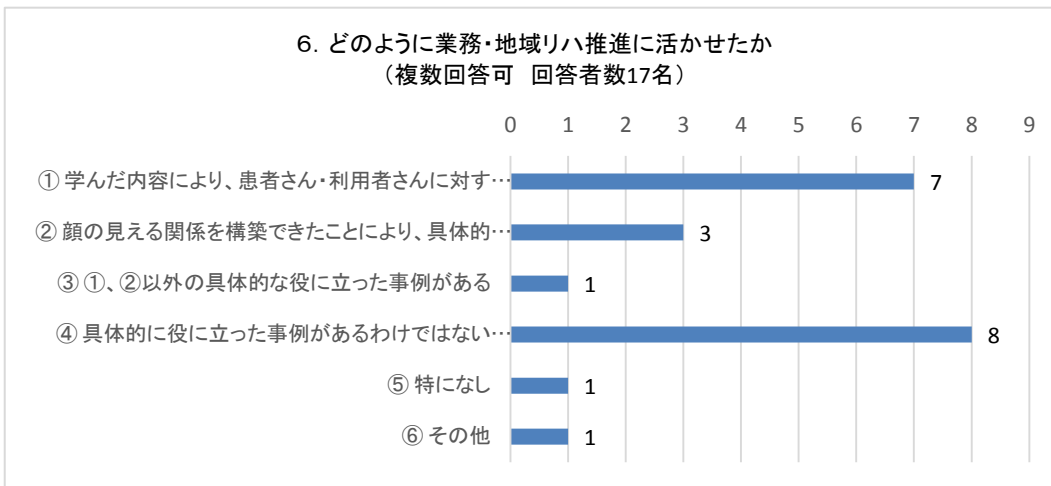


1	グループホームで実践してみたいと思います。災害時にも参考になると感じました。
1	訪問介護での調理に活かせそうです。
1	今後、地域での研修を検討している為、参考にさせていただきたいです。
1	職場の皆さんにも教えます。ありがとうございました。
1	施設では時間がなく難しいことも多いが、試食しながら、その方に合った形状を作りたい。
1	活かせそうだと思うが、今はまだ需要がない。
1	じゃがりこのポテトサラダは想像よりはるかに美味しかったです。メニューに取り入れます。
1	米粉でなめらか粥を作るのは失敗なくご家族に提案しやすかったです。
1	食べやすくするのは、ただ刻むだけでなく、様々な工夫があると知り、早速取り入れてみたいと思います。
1	栄養相談。
1	他のトロミ剤の使用（米粉、寒天）。
2	自宅で食形態の調整が必要な方に。
2	再調理はトロミで調節するように、その人に合った食事を作りたいと思います。
2	在宅で1人分の調理が多いので、簡単にできるかと思っています。
2	訪問なので、直接自分ですという方は少ないかもしれないが、利用者様の家族等にアドバイスがしやすい。色々な方法があると助言したいと思う。（他2名）

2	昼食を作っていますので、今後に活かそうと思います。
2	トロミ剤を使用せず、塩分調整の関係上、寒天を使用してもいいのと感じました。
2	肉・魚に関して、筋繊維が硬い中、叩くことなどの調理ができる事を知った。
2	非常時でのトロミ食になると思いました。
2	ヘルパー研修で活かしていきたいと思います。
2	米粉でミキサー粥を作ること。豚カツの調理工程はかなり多いので、家族指導では教えきれないかなと。大量調理では困難。ヘルパーさんが自宅で行うには良いと思います。きゅうりのことは知らなかったのが勉強になりました。トロミ剤がない時の活用はとてもためになりました。
2	経口摂取の参考になった。認知症の進んだ方にも有効と思われる。
2	訪問し、嚥下障害の方、そのご家族に提案する事ができる。
3	やや手間がかかってしまい、他の方へのアドバイスは難しいかなと思いました。

6. 複数回参加されている方にお尋ねします。これまで参加された研究大会・勉強会等の内容は、どのように業務・地域リハ推進に活かされましたか。該当するものに○をつけ、具体例があれば記載してください。（複数回答可）

- ① 学んだ内容により、患者さん・利用者さんに対するサービス向上につながった事例がある  
具体例（ ）
- ② 顔の見える関係を構築できたことにより、具体的な連携をとることができた事例がある  
具体例（ ）
- ③ ①、②以外の具体的な役に立った事例がある  
具体例（ ）
- ④ 具体的に役に立った事例があるわけではないが、日々の業務においてリハビリテーションへの理解が深まっているのを実感している
- ⑤ 特になし
- ⑥ その他（ ）



【具体例】

1	嚥下。
1	実例を挙げて説明できる。
1	高齢の患者さんの食形態の指導に役立つようになった。
1	ベッドから車イス介助の仕方を細かく教わったことです。
1	装具を使った方への介助が自分でも自信が付き、相手の安心感を得ることができた。
1	介護する人の視線が変わり、ケアに余裕が出ている。
2	簡単な説明で主旨が伝わり易くなっている。
2	自己流を直す。
2	安心していただくことにより、信頼してもらえる。
3	情報の質と量が変わった。

【その他】

6	ミーティングでスタッフみんなで共有し、サービスで活かせるようにしている。
---	--------------------------------------



# 第27回 船橋市地域リハビリテーション地区勉強会

(南西部)

1. 日 時 平成30年11月19日(月)  
18時30分～20時30分
2. 会 場 船橋市中央公民館
3. テーマ 「繰り返す骨折を防ぎながら  
本人の望む生活を実現するために多職種でできること」
4. 参加者 90名

## 5. 内 容

○ミニレクチャー

「意外と知らない骨粗鬆症のホントのこと」

船橋中央病院 整形外科 山下正臣氏

○グループワーク

症例は90代の女性で一人暮らしの方。4年前の大腿骨折頸部骨折から2年後に原因不明の腰椎 圧迫骨折がみつき、現在は屋内での転倒により膝蓋骨骨折を受傷と繰り返し骨折している。コルセットを促されないと装着しない、骨粗鬆症の薬を処方されていたが自己判断にて中断していたことが3度目の骨折時に発覚。身体能力や精神的な不安定さ、自己判断能力の観点から施設入所を勧めるが、本人の強い希望から杖歩行にて自宅退院予定。再骨折の予防を考えながら、本人の望む生活を実現するために多職種で支援方法についてグループワークを行った。

グループワークでは、「本人の望む生活とは」「再骨折を予防するには」を話し合った後に、「多職種で取り組むこと」を検討した。

グループワークを有効にするため、グループワーク前に、骨粗鬆症についての理解を深めるため、船橋中央病院整形外科の山下正臣医師にミニレクチャーをいただいた。

# 第27回船橋市地域リハビリテーション地区勉強会（南西部） アンケート集計結果

【開催日】平成30年11月19日（月）

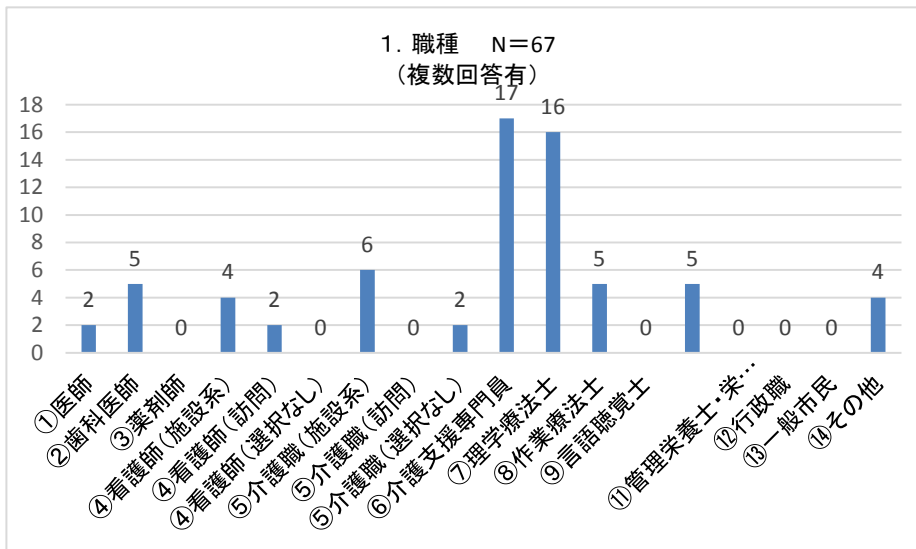
【会場】船橋市中央公民館

【参加施設数】33施設

【参加者数】90名 アンケート回答者67名（回収率 74.4%）

## 1. あなたの職種等を教えてください。

- ①医師 ②歯科医師 ③薬剤師 ④看護師（施設系・訪問）※どちらかに○をお付けください  
 ⑤介護職（施設系・訪問）※どちらかに○をお付けください ⑥介護支援専門員  
 ⑦理学療法士 ⑧作業療法士 ⑨言語聴覚士 ⑩ソーシャルワーカー  
 ⑪管理栄養士・栄養士 ⑫行政職 ⑬一般市民 ⑭その他（ ）

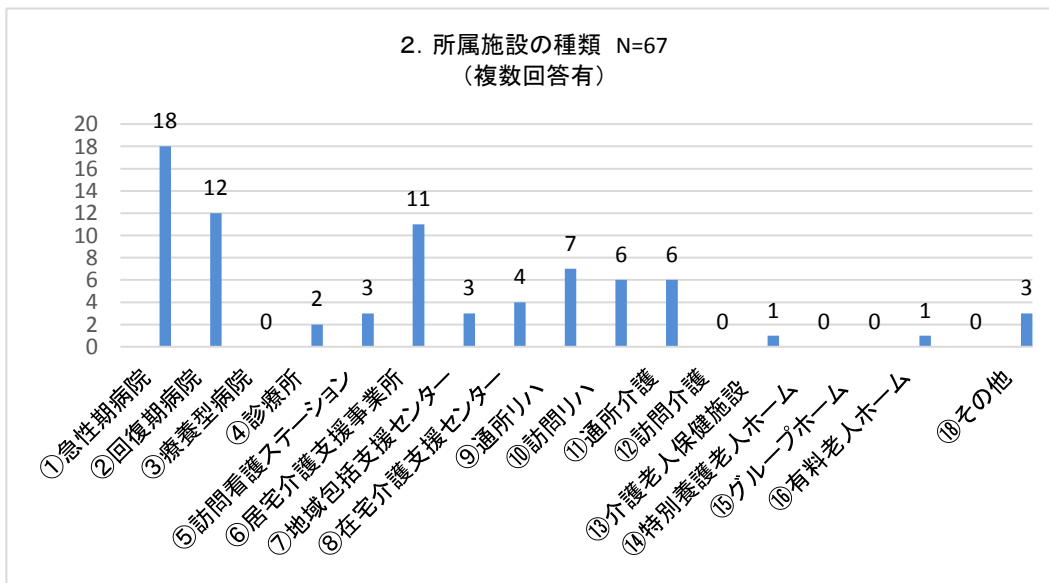


<その他>

相談員、 介護タクシードライバー、 健康運動指導士

## 2. あなたの所属する施設種類について教えてください。

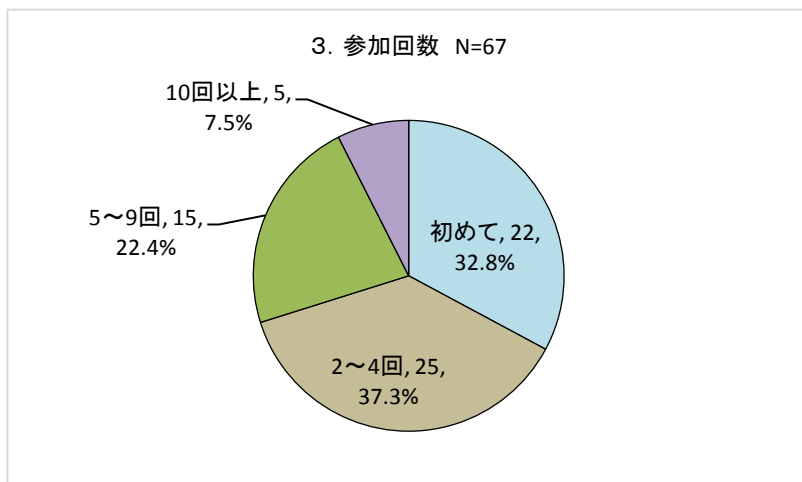
- ①急性期病院 ②回復期病院 ③療養型病院 ④診療所 ⑤訪問看護ステーション  
 ⑥居宅介護支援事業所 ⑦地域包括支援センター ⑧在宅介護支援センター  
 ⑨通所リハ ⑩訪問リハ ⑪通所介護 ⑫訪問介護 ⑬介護老人保健施設  
 ⑭特別養護老人ホーム ⑮グループホーム ⑯有料老人ホーム  
 ⑰小規模多機能型居宅介護 ⑱その他（ ）



<その他>

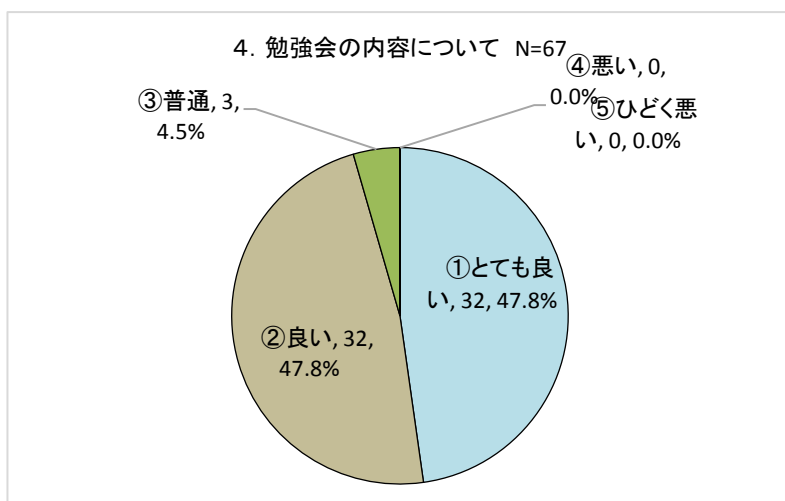
障害福祉サービス、 地域密着型通所介護、 予防事業

3. 船橋市地域リハビリテーション活動（研究大会・勉強会等）に参加されるのは何回目ですか。



4. 今回の勉強会の内容について

- ①とても良い ②良い ③普通 ④悪い ⑤ひどく悪い



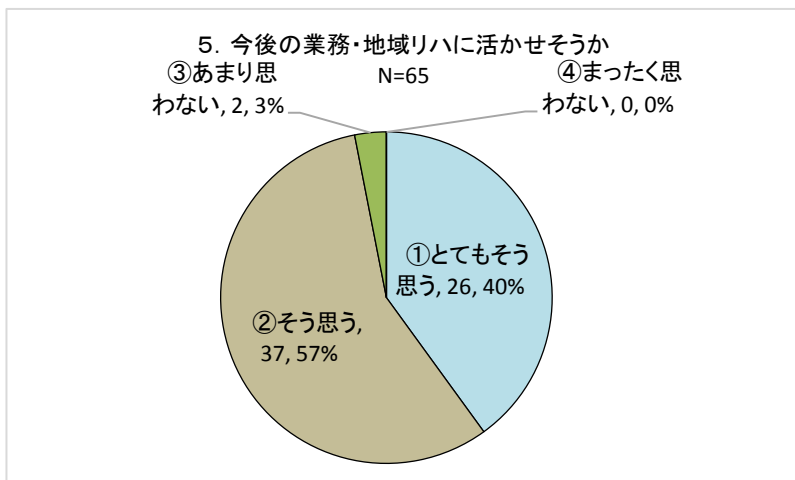
1	多職種で話し合う機会があって良かった。
1	多職種の意見が聞けて良かった。
1	グループワークは初めてでしたので、とても勉強になりました。
1	講義とグループワークのバランスが良いと思います。（講義の内容を元に、グループワークの展開が繋がっていった）
1	骨折という身近な問題を取り上げて、新しい知見も踏まえて、振り返る良い機会になりました。
1	他職種と話ができた事は、よい学びになりました。
1	グループワークのフレームワークがわかりやすく、多職種での取り組みへスムーズに移行でき、実のある検討ができた。
1	多職種の方々とお話できたので、色々な意見があり勉強になりました。
1	多職種での勉強会でしたので、色々な面での意見交換が出来ていて、勉強になりました。
1	グループワークで各個人で考える必要性。
1	メンバーの方々どなたも発言を否定せずにひろってください、積極的に参加ができました。
1	骨粗鬆症の理解を深めることができた。
1	骨粗鬆症のリスク、骨折との関係が理解できた。ケアマネ、歯科医師の在宅の役割を知れた。近位部骨折の8割が脊椎圧迫既往。
1	普段関わらない職種とも意見交換できる貴重な機会でした。
1	多くの方の色々な意見を聞いた。
1	多職種がどのように1ケースに関わっていくか、チームとしてそれぞれの分野でサポートしていくこと、多職種の方とのサポートについて学ぶ機会になった。
1	事例を通して、クライアント像を考える勉強になりました。骨折を繰り返す方への支援だけでなく、クライアントのニーズを把握しながら支援する必要性について考えるきっかけになりました。
1	他職種での話す機会は貴重な経験でした。

1	テーマが絞られていたので、話しやすかった。付箋に書き出すスタイルは話しやすい。
1	他職種の方々と交流できた事。
1	GWによる意見の交換は、いつも気付きの機会になっています。
1	他事業所の方と学びを分かち合う良い機会となりました。
1	普段関わりの少ない医療関係の方々とお話できました。貴重な機会をありがとうございました。
2	他職種の方とグループワークする機会がないので、参加して良かったです。
2	各専門的な立場での意見を聞くことができた。
2	骨折、骨粗鬆症の知識が深まり、事例を通して他職種の意見が聞けて勉強になりました。
2	職種の事例検討の機会が持てる。
2	骨粗鬆症と身近な症状をメインとした勉強会はなかなかないので、良かったです。
2	他職種の様々な意見や実体験を聞いて参考になった。
2	他職種の方の色々な意見が聞けた。
2	GWが盛り上がった。1グループの人数が前回よりもこじんまりとしていて話し易かった。
2	ミニレクチャーの[骨折が死に繋がる可能性がある、それも結構な割合で]という事がとても驚きでした。なかなか自覚することが難しい骨粗鬆症ですが、きちんと向き合わないといけないと改めて思いました。
2	色々な職種の方のご意見が聞けて良かったです。
2	普段関わることのできない職種の方々とお話ができ、とても勉強になりました。講師の山下先生のミニレクチャーもとてもわかりやすかったです。
2	他職種の視点を知ることができた。
2	進行がわかりやすかった。
2	多職種で在宅生活を考えるにあたって、議論しやすいテーマだったように思う。
2	リアルな症例検討が良い。
2	多職種の意見が聞けたことや交流が持てたこと。
2	再骨折の現状や多職種の意見が多く聞けて良かったです。
2	多職種の意見を聞いてそれぞれの視点を学べた。介護サービス以外のサービスについても知ることができた。
2	実際に骨折を繰り返す利用者さんは沢山いるので、参考になりました。



5. 今回の勉強会の内容は、今後の業務に活かせそうですか。

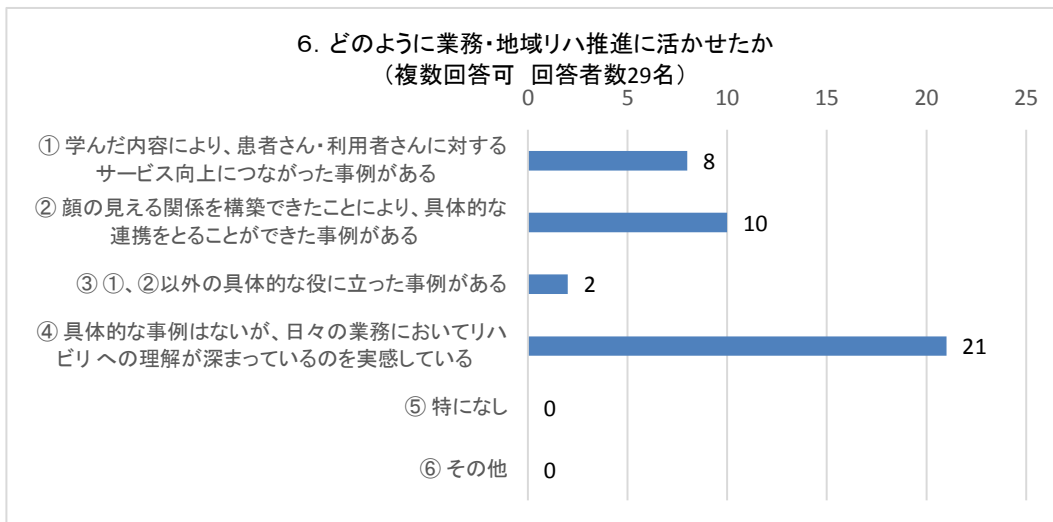
①とてもそう思う ②そう思う ③あまり思わない ④まったく思わない



1	グループワークの中で、視点の違い、捉え方の違いがあり、勉強になりました。
1	内服や栄養の支援について、高齢で独居の方でも継続できる方法を提案できるように、入院中にチームで検討を深めたいと思います。
1	ティータイム時のお話の話題として、たくさん頂けました。ありがとうございました。
1	会社へ持って行って使っていきたい。
1	今回のケースは、普段からもよく関わりそうな設定だった。PT、OT、Ns、CMなどの意見を今後も参考に出来たらと思います。
1	骨粗鬆症の方は色々な要素を含んでいるので、多職種の色んな方面からアプローチが必要。
1	患者様の生活歴を知り、ニーズを把握すること。
1	内服についてや実際の経験を、同じグループの方々に教えてもらい、とても参考になった。
1	同様のケースもあると思います。
1	視点、着目点の違いは、業務の実行に役立つと思われます。
1	多職種や他事業所の方の意見を知れたので、今後利用者様に提案できる幅が広がった気がしました。
1	ケアマネさんのアドバイスが良かった。
2	他職種ともっと意見を交換しようと思いました。
2	骨粗鬆症への意識が上がり、回復期の退院支援に活かせる。
2	主治医、OT、PTと交流をしていこうと思います。
2	いろいろ職種の意見を聞くことができた。
2	他職種の視点、考え方が勉強になりました。
2	PT、OTの視点が確認できた。
2	退院調整会議の参考になった。
2	帰ってからの目標なども、リハで考えていきたい。
2	GWを通じ、多職種各々の視点の違い・気付きがあり、とても有意義でした。
2	今後、同じようなケースに対応できそう。
2	他職種の意見を多く聞くことができました。
2	他グループの発表や、グループの中での意見を聞くことで、自分の思いつかないことや違う角度からの話を聞けるので、勉強になります。
2	骨折者の退院支援。ケアカンファレンス等。
2	ディスカッションした方々の立場での意見交換ができて良い。
2	検討内容として、テーマで明確に挙げてあった。
2	他職種が気になるポイントを知れた。
2	今後の退院時や転院時の参考にしたいと思いました。
2	骨折のケース、自宅へ帰る方の抱える問題を考える時に思い出したい。
2	様々な職種の内容が聞けて良かったです。

6. 複数回参加されている方にお尋ねします。これまで参加された研究大会・勉強会等の内容は、どのように業務・地域リハ推進に活かされましたか。該当するものに○をつけ、具体例があれば記載してください。（複数回答可）

- ① 学んだ内容により、患者さん・利用者さんに対するサービス向上につながった事例がある  
具体例（ ）
- ② 顔の見える関係を構築できたことにより、具体的な連携をとることができた事例がある  
具体例（ ）
- ③ ①、②以外の具体的な役に立った事例がある  
具体例（ ）
- ④ 具体的に役に立った事例があるわけではないが、日々の業務においてリハビリテーションへの理解が深まっているのを実感している
- ⑤ 特になし
- ⑥ その他（ ）

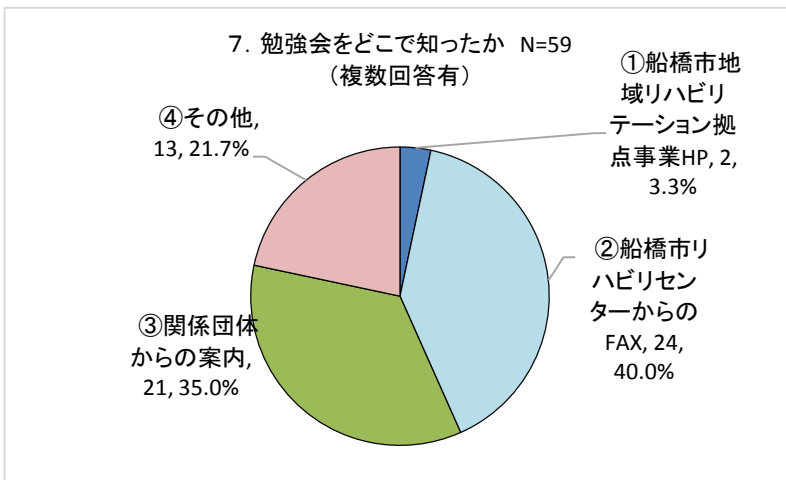


【具体例】

1	独居の人は緊急通報装置をつけられる人はつけるとよい。
1	様々な考えをできるように became と思われる。
2	担当の方とのコミュニケーションがスムーズになっている。
2	Drと話しやすくなった。
3	他の職種の立場に立った思考が持てるようになった。

7. 今回の勉強会をどこで知りましたか。

- ①船橋市地域リハビリテーション拠点事業ホームページ
- ②船橋市リハビリセンターからのFAX      ③関係団体からの案内
- ④その他（ ）



<その他>

- 上司の勧め。
- 職場・病院の案内。
- 病院職員より。
- ケアマネよりの紹介。
- 知人に誘われて。
- 担当役員。

**8. 地域リハビリテーション拠点事業に対する意見や要望、今後希望する勉強会等についてお聞かせください。**

患者、利用者など、当事者と共に学ぶ機会があれば、ぜひ参加させて頂きたい。
色々な事を学びたいです。
音響が聞き取り難かったので、改善を望みます。
疾患毎の内服についての知識を深めたい。
難しかったです、また参加したいと思います。
現場の担当の方の話を、伺える機会を望みます。

## 第 68 回～72 回介護職員向け勉強会

	勉強会名	月 日	会場	参加人数
第 68 回	指導者講習 (起居・体位変換)	8月29日(水)	船橋市立リハ病院	35名
第 69 回	移乗(基本)②	9月28日(木)	さわやか苑	24名
第 70 回	起居・体位変換	10月30日(火)	船橋市立リハ病院	36名
第 71 回	摂食嚥下	11月29日(木)	船橋市立リハ病院	39名
第 72 回	移乗	12月17日(月)	船橋市立リハ病院	32名

2018年度は「参加を見据えた介護技術の習得」を年間テーマに掲げ、年間10回実施する計画を立てた。

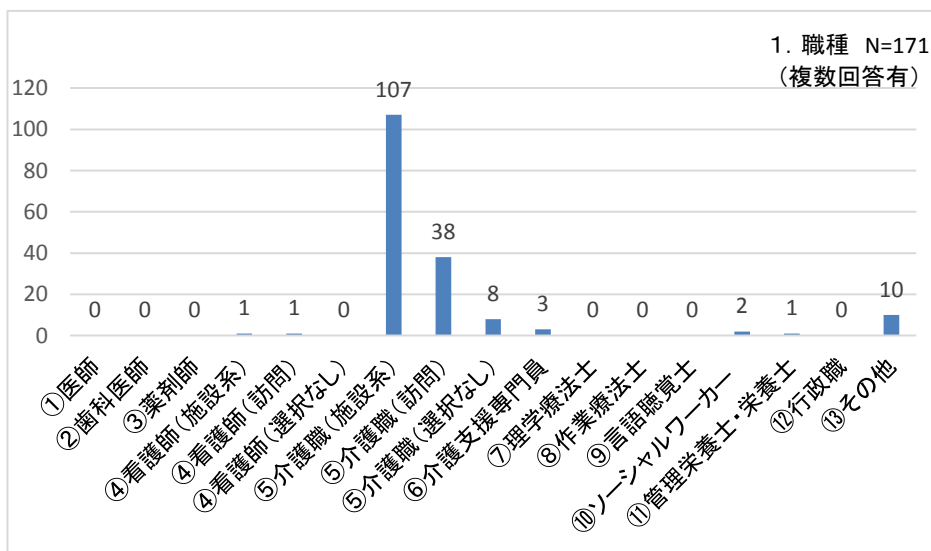
各会冒頭で ICF に触れ、日ごろのケアは参加につながることを見据えて行なうものであることを共有し、それぞれのテーマごとの実践型勉強会を行なった。

今年度も船橋市老人福祉施設協議会の協力の下、「特別養護老人ホームさわやか苑」に会場を提供いただき勉強会を開催することができた。

- 第68回 指導者講習(起居・体位変換) 8月29日(水) 船橋市立リハ病院 35名
- 第69回 移乗(基本)② 9月28日(木) さわやか苑 24名
- 第70回 起居・体位変換 10月30日(火) 船橋市立リハ病院 36名
- 第71回 摂食嚥下 11月29日(木) 船橋市立リハ病院 39名
- 第72回 移乗 12月17日(月) 船橋市立リハ病院 32名

1. あなたの職種等を教えてください。

- ①医師 ②歯科医師 ③薬剤師 ④看護師(施設系・訪問) ※どちらかに○をお付けください
- ⑤介護職(施設系・訪問) ※どちらかに○をお付けください ⑥介護支援専門員
- ⑦理学療法士 ⑧作業療法士 ⑨言語聴覚士 ⑩ソーシャルワーカー
- ⑪管理栄養士・栄養士 ⑫行政職 ⑬その他 ( )

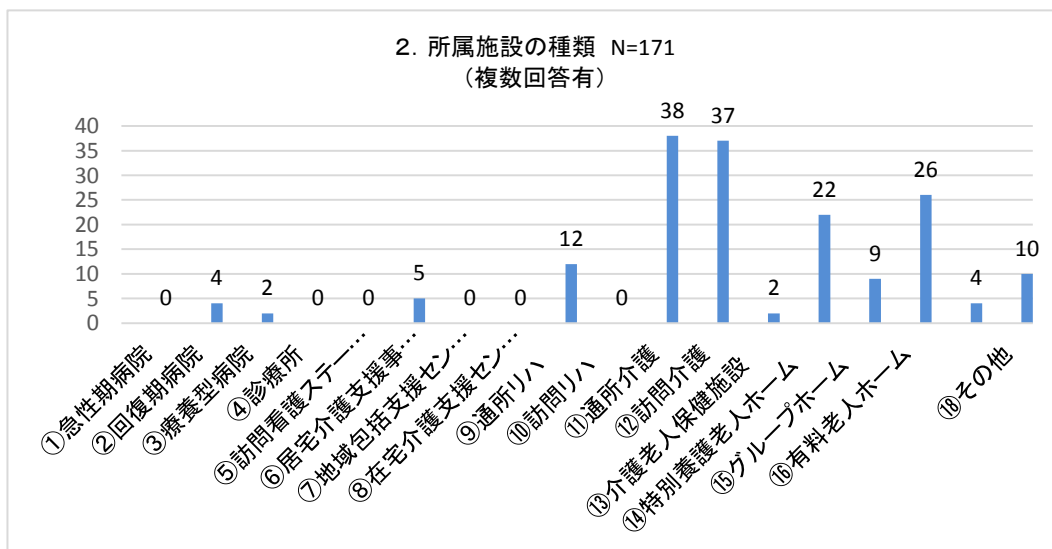


<その他>

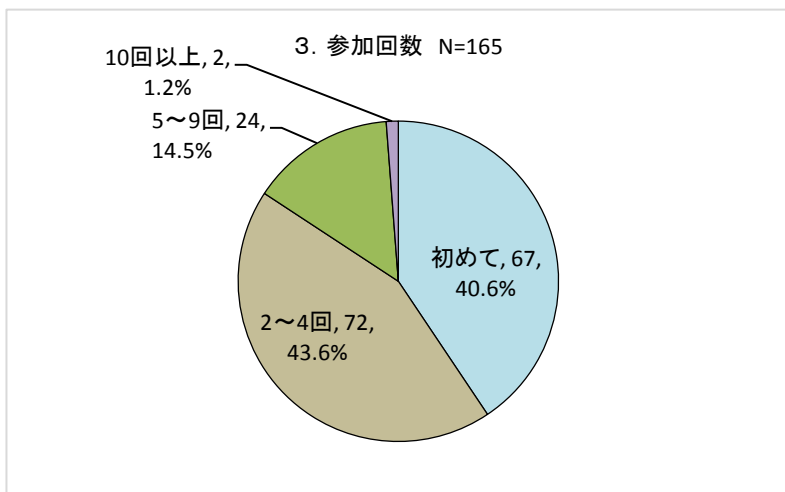
柔道整復師

2. あなたの所属する施設種類について教えてください。

- ①急性期病院 ②回復期病院 ③療養型病院 ④診療所 ⑤訪問看護ステーション
- ⑥居宅介護支援事業所 ⑦地域包括支援センター ⑧在宅介護支援センター
- ⑨通所リハ ⑩訪問リハ ⑪通所介護 ⑫訪問介護 ⑬介護老人保健施設
- ⑭特別養護老人ホーム ⑮グループホーム ⑯有料老人ホーム
- ⑰小規模多機能型居宅介護 ⑱その他 ( )

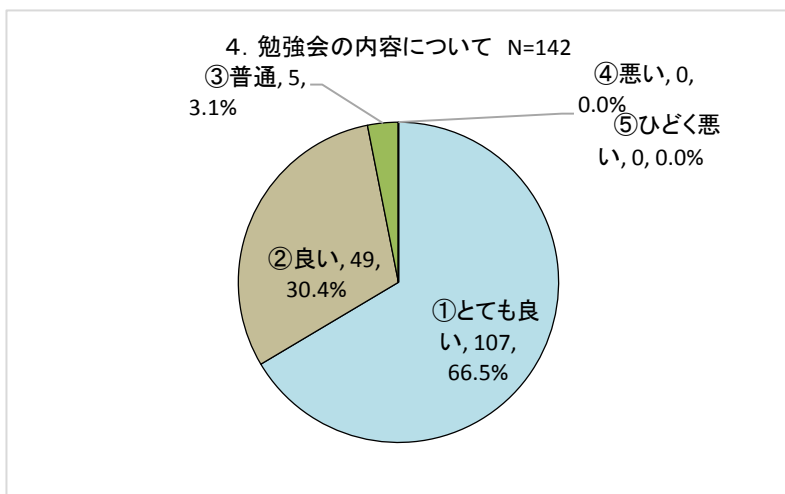


3. 船橋市地域リハビリテーション活動（研究大会・勉強会等）に参加されるのは何回目ですか。



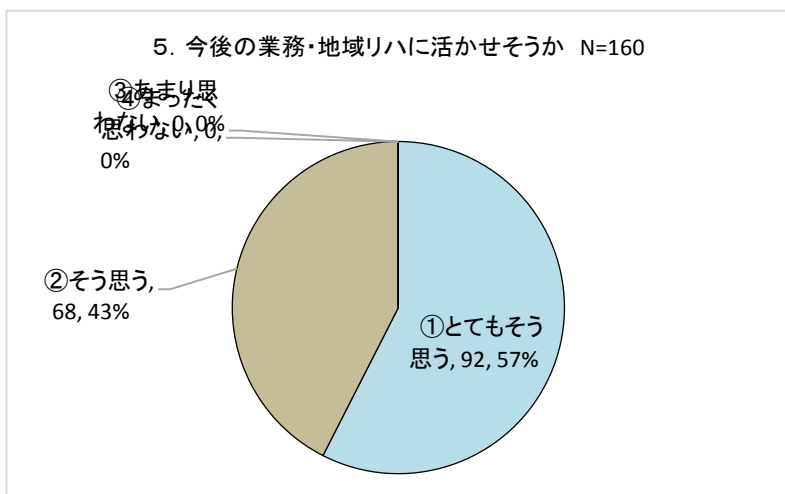
4. 今回の勉強会の内容について

- ①とても良い ②良い ③普通 ④悪い ⑤ひどく悪い



5. 今回の勉強会の内容は、今後の業務に活かせそうですか。

- ①とてもそう思う ②そう思う ③あまり思わない ④まったく思わない







# 船橋市地域リハビリテーション拠点事業 平成30年度 活動報告

船橋市リハビリセンター  
石原 茂樹

# 船橋市地域リハビリテーション拠点事業一覧

## 研修 講演会

リハビリ関係者向け講演会	地域リハ研究大会	2回/年
リハビリ関係者向け研修会	地区勉強会 摂食栄養サポート勉強会 介護職勉強会	3回/年 2回/年 10回/年
市民向け講演会	市民公開講座 ・リハビリセンター講演会	2回/年
市民向け研修会	ふなばし福祉フェスティバル@vivit南船橋 ヘルシー船橋フェア	

## 普及 啓発

パンフレット作成	毎年更新
リーフレット作成	年2回発行
刊行物作成	年4回発行
ホームページ更新	随時更新
調査研究	通所リハ実態調査・回復期リハ病棟実態調査 ・サービス担当者会議実態調査

# 平成30年度下半期実施事業

8月	29日	第68回 介護職勉強会（指導者向け）
9月	20日	第18回 研究大会
	27日	第 5回 リハビリセンター講演会
		第12回 摂食栄養サポート勉強会
	28日	第69回 介護職勉強会（移乗介助）@さわやか苑
10月	20日	第 7回 ふなばし福祉フェスティバル
	30日	第70回 介護職勉強会（寝返り・体位変換等）
11月	19日	第26回 地区勉強会（南西部）
	20日	第71回 介護職勉強会（摂食嚥下）
12月	17日	第72回 介護職勉強会（二人介助）
1月	12日	第32回 ヘルシー船橋フェア

# 第18回 船橋市地域リハビリテーション研究大会

平成30年9月20日（木）@船橋市中央公民館

## 「ICFを活用したリハビリテーション医療」 参加者270名

（公財）日本障害者リハビリテーション協会顧問、日本福祉大学客員教授、  
小金井高次脳機能障害者友の会（いちごえ会）顧問、元東京大学医学部教授

**上田 敏 氏**



- ICFを活かした患者様への退院支援に活かせると思います。
- “障害はごく一部で残りはプラスの要素（生活機能）である。”という事を考えながら、介入する事で退院後の生活につながる、リハビリを実施できると考えます。
- 高齢者リハに関わる中で、最後の「参加するような事をつくる」というのが印象に残り、そのように行っていきたいと思いました。

# 第5回 リハビリセンター講演会

平成30年9月27日（木）  
@船橋市リハビリセンター  
参加者：33名



- 簡単な動きで体を動かす事がよく理解できました。
- 毎日少しずつやってみようと思った。（わかりやすく、やりやすいと思ったから）
- 普段考えた事はありませんでした。ポイントが良く解りました。
- 日頃は漫然と行っていることを、意識して行うことの重要性の認識できた。



# 第12回 摂食栄養サポート勉強会

【開催日】平成30年9月27日(木)

講師：NPO法人地域けあサポート  
小暮 美代子氏

【会場】船橋市立リハビリテーション病院 【参加者】34施設65名

テーマ「家でできる嚥下食の工夫～コンビニ弁当が嚥下食に～」



とんかつ弁当(調理前)



(3層)  
ソース  
衣  
肉

とんかつ弁当(調理後)



試食



講演・調理実演



事前調理

○米粉など、美味しくトロミがつけられる方法がわかってよかった。

○とても現場に合った調理の実習で勉強になりました。

○再調理の方法を知ることができてよかったです。普段から食べているもので、風味も損なわれず驚きました。

○グループホームで実践してみたい。災害時にも参考になる。

○訪問し、嚥下障害の方、そのご家族に提案する事ができる。

# 第27回 船橋市地域リハビリテーション地区勉強会（南西部）

「繰り返す骨折を防ぎながら  
本人の望む生活を実現するために多職種でできること」

平成30年11月19日（月）

@船橋市中央公民館

ミニレクチャー

「意外と知らない骨粗鬆症のホントのこと」

船橋中央病院  
整形外科 山下正臣氏



司会  
船橋中央病院  
看護師 高橋真子 氏



船橋中央病院  
副院長  
深澤 元晴氏



○ミニレクチャーの[骨折が死に繋がる可能性がある、それも結構な割合で]という事がとても驚きでした。

○骨折という身近な問題を取り上げて、新しい知見も踏まえて、振り返る良い機会になりました。

○骨粗鬆症のリスク、骨折との関係が理解できた。  
ケアマネ、歯科医師の在宅の役割を知れた。

○グループワークは初めてでしたので、とても勉強になりました。

○グループワークのフレームワークがわかりやすく、実のある検討ができた。



# 介護職員向け勉強会（第68～72回） 「参加を見据えた介護技術の習得」



第68回  
指導者向け(起居・体位変換)  
8/29 @リハビリ病院  
参加者 31名



第69回 移乗介助  
9/28 @さわやか苑  
参加者 24名



第70回  
起居・体位変換  
10/30@リハビリ病院  
参加者 36名

第71回  
摂食嚥下  
11/29@リハビリ病院  
参加者 39名



○実技がたくさんあり、とても勉強になりました。

○実技を行う際、スタッフの方がそれぞれグループについて教えてくれたのが良かった。

○人に伝える時の根拠がわかった。

○特養などで活かせるものがあり、とても役に立ちます。

○誤嚥についてわかっているようでわかっていませんでした。ムセのない誤嚥があること、ひと口目が起こりやすいなど。



第72回  
移乗@リハビリ病院  
12/17 32名



次回

# 第19回地域リハビリテーション研究大会

平成31年2月9日(土) 13:00~16:30

会場 船橋市民文化創造館(きららホール)

## 【基調報告】

- 「船橋市における介護サービスの推移」
- 「船橋市における回復期リハ病棟実態調査報告」

## 【特別講演】

「地域包括ケア時代の地域に求められること」

講師：厚生労働省 医務技監

鈴木 康裕 氏



- 【研究発表】 「自立支援に向けて私たちができること！」
- 「老健フェルマータ船橋としての役割」  
介護老人保健施設フェルマータ船橋/福富 仁
- 「リハビリから就労へ～障害のある人のライフプランの  
拡大を目指して～」  
障害者通所施設オーヴェル/宮前 篤史
- 「船橋摂食嚥下臨床研究会といいじま歯科の取り組みに  
ついて」  
船橋摂食嚥下臨床研究会・いいじま歯科/飯島 美智子
- 「89回目のクリスマス～胃ろうから経口摂取移行への  
取り組み～」  
みやぎ台南生苑/尾川裕一・小峰初恵
- 「船橋在宅医療支援拠点である“ふなぼーと”の  
取り組み」  
船橋在宅医療支援拠点ふなぼーと/松本 淳